

酒井氏と七里法華

上総国土気城主、酒井氏の祖、定隆は、遠江国(今の静岡県)の生まれで、安房国の里見氏などに仕えた後、土気城を拠点に土気(千葉市緑区)から東金(東金市)一帯に勢力をふるいました。土気城主となった定隆は、領内の寺院をことごとく日蓮宗に改宗させたと伝えられています。定隆は、後に土気城を子の定治(土気酒井氏)にゆずり東金城に移りました(東金酒井氏)。以後、両酒井氏は、後北条氏と里見氏の両勢力にはさまれ時々的情勢に揺れ動きますが、後、後北条氏に従うようになり、1590年(天正18年)豊臣秀吉による小田原合戦で後北条氏とともに滅びました。



日泰上人像 本行寺蔵
浜野本行寺の住職。



酒井定隆像 本寿寺蔵
酒井氏の祖。土気城主。



土気城跡 緑区土気町
酒井定隆の本拠地。



本寿寺 緑区土気町
土気城主となった定隆により、本寿寺は建立された。

◇◇◇七里法華◇◇◇

酒井定隆は、品川から船に乗り浜野に向かう途中、嵐にいましたが、たまたま同船していた浜野本行寺の日泰上人が船のへさきに立ち、法華経を唱えるとたちまち嵐がおさまった。これを見た定隆は、日蓮宗を信じるようになり、「一城の主となったならば、必ず迎えに上がり、領地内をすべて日蓮宗にする」と日泰に約束します。後に土気城主となった定隆は、約束どおり日泰を迎え領内の本寿寺を与え、領地内の寺院をすべて日蓮宗に改宗します。これを七里法華といいます。